

平成28年 第1回伊那地域協議会会議録

| | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|---------|----|-------|-------|--------|----|--------|---|
| 開催日 | 平成28年5月19日(木) | | | | | | | | |
| 開催時間 | 開 会 | 午後6時30分 | | | 閉 会 | 午後9時8分 | | | |
| 開催場所 | 伊那市役所 501・502会議室 | | | | | | | | |
| 委員の出欠 出席33名 欠席6名 | | 委員氏名 | | | 委員氏名 | | | 委員氏名 | |
| | 1 | 板倉 倫顕 | 出 | 16 | 伊藤 和義 | 出 | 31 | 岩本 庄平 | 出 |
| | 2 | 守屋 武夫 | 出 | 17 | 西澤 茂也 | 出 | 32 | 高橋 陽子 | 出 |
| | 3 | 伊藤 仁 | 出 | 18 | 藤澤 香澄 | 出 | 33 | 唐木 由美子 | 出 |
| | 4 | 久保村 友保 | 欠 | 19 | 若林 一雄 | 欠 | 34 | 鈴木 優子 | 出 |
| | 5 | 白鳥 始 | 出 | 20 | 池上 直樹 | 出 | 35 | 平澤 澄穂 | 欠 |
| | 6 | 細田 幸一 | 出 | 21 | 宮下 平治 | 出 | 36 | 武田 登 | 出 |
| | 7 | 中村 初治 | 出 | 22 | 畑 英城 | 欠 | 37 | 平賀 裕子 | 出 |
| | 8 | 宮下 信一 | 出 | 23 | 中村 繁子 | 出 | 38 | 小林 正 | 出 |
| | 9 | 中村 隆幸 | 出 | 24 | 小林 旬子 | 出 | 39 | 井口 清吾 | 出 |
| | 10 | 伊澤 芳人 | 出 | 25 | 向山 昌江 | 出 | | | |
| | 11 | 有馬 久雄 | 出 | 26 | 中村 良一 | 欠 | | | |
| | 12 | 酒井 秋雄 | 欠 | 27 | 小池 弥生 | 出 | | | |
| | 13 | 林 典男 | 出 | 28 | 増田 良平 | 出 | | | |
| | 14 | 米窪 砂男 | 出 | 29 | 細田 勇次 | 出 | | | |
| 15 | 平澤 徹 | 出 | 30 | 武田 禎祐 | 出 | | | | |
| 署名委員 | 板倉 倫顕 | | | 守屋 武夫 | | | | | |
| 条例第10条の規定により出席した者 | なし | | | | | | | | |
| 市側の出席者 | 副市長 林 俊宏 | | | | | | | | |
| 出席した事務局職員 | 総務部長 原 武志 地域創造課長 宮原 貴敏 地域振興係長 飯島 勝 地域振興係 橋爪 智美 | | | | | | | | |
| 議 事 | 協議事項 (1) 正副会長の選任について (2) 地域協議会の役割について ア 伊那市地域自治区条例の概要について | | | | | | | | |

| | |
|------|--|
| | イ 伊那地域協議会規約について ウ 地域協議会の機能と役割について エ 前期からの引き継ぎ (3) 伊那市協働のまちづくり交付金について ア 伊那市協働のまちづくり交付金の概要について イ 伊那市協働のまちづくり交付金事業の選定について (4) その他 |
| 配布資料 | 資料 No. 1 伊那市地域自治区条例の概要 資料 No. 2 伊那地域協議会規約 資料 No. 3 地域協議会の機能と役割 資料 No. 4 今期のまとめ 資料 No. 5 伊那市協働のまちづくり交付金制度の概要 資料 No. 6 伊那市協働のまちづくり交付金事業一覧 |

1 開会

原総務部長により、定刻に開会する。

2 委嘱書交付

林副市長より、委嘱書を交付する。

3 あいさつ（副市長より）

地域協議会については、地域のことは地域のみなさんで考える組織を設置できるように、合併時に合併特例法に基づく高遠町・長谷の地域自治区を設け、また併せて旧伊那地区のエリアに地方自治法に基づく地域自治区を設けさせていただいた。設ける際には、旧伊那地区ではそれぞれ昭和29年に合併した経過があり、区長さんを中心に地区のことを話し合う会があったため、屋上屋ではないかという指摘もあったが、地域のことを地域で考えるという地方自治法の改正もあったなかで、地域のことを考え、市へ提言したり、市からのお願い事に意見したりできるよう設置をした。ここで合併10年を迎え、合併特例法に基づく地域自治区は終わりということになることから、2年ほどかけて、合併10年後の地域自治区の有り方について議論をしていただいた。基本的には自治区を残していくという方向でまとめたが、伊那地域については地域が広く、学校区で分けたらどうかという提案もあったが、小委員会を設けて議論をすれば足りるのではないかという意見をいただき、伊那については今までどおりのエリアで、必要に応じて小委員会を設けて議論を進めるということになった。

地域協議会は、地域の課題を地域のみなさんが考え、意見を出し、力を合わせて解決していくために設置させていただいた。また、平成28年度には地域協議会で自由に使える交付金を新設した。それぞれの地域でどんな事業に交付金を交付するのか議論していただき、有効に使っていただければと思う。

地域協議会の委員の皆様には、是非積極的に忌憚のないご意見をいただきたいと思う。

4 委員・職員自己紹介

板倉委員より順次自己紹介を行う。続いて事務局職員が自己紹介を行う。

5 正副会長の選任について

(事務局)

正副会長の選出方法について意見を伺う。

(委員)

今までの経過等もあると思うので、事務局で提案はないか。

(事務局)

会長にはこの協議会の発足当時から経験されていて、前期においても協議会の会長をお勤めいただいた武田 登さんをお願いしたい。副会長には、前期に引き続き2期目の委員である竜西地区選出で久保村 友保さんと、竜東地区選出で有馬 久雄さんをお願いしたい。

《その他の意見等なし》

(事務局)

会長を 武田 登委員 に、副会長を 久保村 友保委員 と 有馬 久雄委員 をお願いすることを拍手をもって承認願いたい。

《委員の拍手で承認》

《会長・副会長よりあいさつ》

(会長)

地域協議会は新しい時代の地域づくり・まちづくりという観点からすると、大変理念が素晴らしいものだが、運用にいたると大変難しい。委員のみなさまのご協力と知恵をお願いして務めてまいりたいと思う。

(副会長)

会長を補佐してこの会が活発に活動できるよう協力していきたい。みなさんのご協力をお願いする。

6 会議録署名人の指定について

(会長)

会議録署名人に1番 板倉 倫頭委員、2番 守屋 武夫委員を指名する。

7 協議

(1) 地域協議会の役割について

(事務局)

伊那市地域自治区条例の概要、伊那地域協議会規約、地域協議会の機能と役割について及び前期からの引き継ぎを資料に基づき、一括説明。

<質疑・応答>

(委員)

各区の行政とこの協議会の役割がわからない。区の課題は区長が把握して区の運営を行っており、この協議会の役割と同じようなことをしている気がする。住み分けがわからない。

(事務局)

旧伊那市の地区には区等の自治会があり、区長がいて区の課題等に対応しているが、伊那地区においてはエリアが広く、複数の区にまたがる広範囲な課題もあり、区の代表や様々な団体の方から知恵をいただきながら、伊那地域の課題等を解決していきたいことから協議会を設置している。

(委員)

我々委員の役割が公の立場なのか個人なのかわからない。私としては区から推薦してもらってこの場に出ていると思っているが、区の役員をしていないと区の声が聞き取りづらい。

(事務局)

地域の方の声や各種団体の方の声を大事にしているので、地域協議会の委員をお願いするにあたって、それぞれの区や団体に推薦を依頼した。委員の委嘱という位置付けとしては個人の方に委嘱をしたので、個人の意見も大切になってくるし、地域の方の声を吸い上げて行政側に伝える役割も大切である。区や団体へ地域協議会で議論されていることを繋いでいただくとともに、区や団体からの意見も協議会に繋いでいただきたい。

(委員)

前期の地域協議会ではグループ討議をしたようだが、複数の区にまたがる課題を検討するには隣接している地域の方が密接で共通課題も多いと思われるので、地区のグループ分けの検討が必要だと思う。伊那西では学校主体の公民館的な組織があり、地域とともに色々な行事・取り組みをしている。そうした活動を近隣区と連携して広げていき、この地域をどのような形にしていくかといった観点から、グループの中で討議できれば良いと思う。

(会長)

昨年度までも今のような意見があった。課題等の内容によってグループに分けたり、全体で討議したりすることが必要になってくる。去年積み残している問題として、自治会と行政の事業年度を統一できないかという問題、また自治会への未加入が多くなっているという問題があるが、この問題は全地域に係わる大きな問題。問題によってグループに分けたり、全体で討議したりするのが良いのではないか。

(事務局)

ただいま出された意見は昨年までの地域協議会の運営の中で同じことがくすぶっていたかと思う。協議会と区との運営の関係が見えてこないということだが、協議会という組織は地域の課題を検討していただき、まとめたものを市長に提言することができるという規定がある。それだけ大きな力を持っている組織である。広い地域なので検討する過程で課題が地域によって様々だと思う。共通した課題もあれば、地域に限定した課題もある。小委員会を設けることができるので、課題について自由に討論し、地域の課題をそれぞれの立場で拾い上げて、伊那地域協議会の意見として市へ提言していただきたい。自治会の事業年度の問題や自治会への未加入が多い問題に伊那地域ではどのように対応していくか語り合っていて、できることをやっていく、ここから始めようという姿勢が良いかと思うので、昨年議論をさらに深めて、今年さらに進展していければと考える。

(会長)

その他ありますか。おそらく次回あたりから地域の課題・問題について、みなさんに出してもらい検討していくことになると思う。昨年のまとめを一読いただきたい。

(2)伊那市協働のまちづくり交付金について

(事務局)

伊那市協働のまちづくり交付金の概要について資料に基づき、説明。

<質疑・応答、意見交換>

(委員)

交付金の配分額を単純に人口で割ってみたら、伊那地区は一人当たり 119 円、長谷は一人当たり 638 円と大変違うが、どのように計算したのか。

(事務局)

規模の小さい地区においてもある程度の額を確保できるように、交付金 1,500 万円のうち、900 万円を均等割りで 9 地区に配分している。一地区に 100 万円。残った 600 万円を人口比で分けている。人口規模が大きい地区は一人当たりの配分額が少なくなってしまう

が、均等割りで交付金の6割を配分しているためと、ご理解いただきたい。

(委員)

今年から新設した交付金があるということだが、区民に対してどのように周知し、理解を得ていくのかをお聞きしたい。

(事務局)

交付金については、既に募集を行っている。4月4日から5月13日まで事業の募集を行った。周知の方法だが、それぞれの区に募集チラシの回覧をし、ホームページでも周知をしている。区長には直接通知したので承知していると思う。

(会長)

区長がこの中にいると思うが、実情を教えてください。

(委員)

市から交付金制度の通知文書がきている。募集期間等はその通知に記載されていた。検討する期間がなかったなので、区会議会にかけて今年は見送るということで決定した。

(委員)

交付金の募集はもう締め切ってしまったのか。

(事務局)

一定の募集期間を設けて募集をした。これについては、前期の協議会においてもお知らせし、市報や回覧等でも周知したのでご理解をいただきたい。応募のあった事業の金額は伊那地域協議会への配分額に達していないので、2次募集という形をとっていきたい。

(委員)

交付金について承知していたのだが、区と地域協議会の係わりがまったく分からず、区長と悩んだ結果、よく分からないから見送ろうという結論になった。協議会において交付金について話をするのが、募集期間が過ぎた後というのはおかしいのではないかという気がする。

(委員)

地域協議会に配分されたお金を、その年度に使いえなかった場合どうなるのか。市へお返しする形となるのか。それとも地区でプールしておけるお金となるのか。年度に使い切れなかったお金の行き先はどうなるのか説明いただきたい。

(事務局)

市の財務の関係上、余ったお金は市へ戻していただくことになる。もし余れば年度ごと返金をしていただくことで、ご理解をお願いしたい。

(委員)

年度で使った方がいいということか。

(副会長)

申し込んだところにしかお金はいかないのではないか。地区に強制的にお金が配分されるわけではない。

(事務局)

交付金の交付は、応募のあった事業が交付金を交付するにふさわしいか協議会で審査していただき、交付を決定することになる。もしそれぞれの事業を実施しても伊那地域協議会にお金があるということになれば、2次募集をし、応募がなければ年度末に市へお返しいただくことになる。

(委員)

一回採択されて事業が行われ翌年も同じ事業を続けていくと思うが、その場合は恒常的ということになり採択されないのか確認したい。

(事務局)

大きな構想の中で複数年係る事業もあると思う。そういった事業は今年はこれを実施し、継続して翌年はこちらを実施したいということであれば良いと考えている。例えば事業計画に、事業期間全体の事業内容と単年度に必要な事業費を示してもらい、地域協議会で審査をして、良い事業だということであれば採択していくことになると思う。将来的に長期間にわたる事業もあろうかと思うが、ゆくゆくは交付金がなくても自立してやっていけるといった視点で見て交付の採否を決定していただければと考えている。

(委員)

市長は「お金は出さないが、提案してくれれば協力はする」という基本的な考えを持っていた。今回初めてお金を出してでも事業をやってほしいという立場での話ということではよいか。

(事務局)

今回交付する交付金は、地域の活性化を図ったり、地域課題を解決したりするのに、財源上の措置を行うという趣旨に基づいて新設した交付金。今年はスタートの年で、伊那市全域で1,500万を設定した。小さい地域は人口割りというと不利益になるので、ある程度活動し易いように、均等割りの部分を厚くした経過がある。今回は均等割りを6割、人口

割りを4割と設定したが、今後の活用によっては総額についても配分方法についても見直しをしていきたいと思う。先程2地区で検討する期間が短かったので見送ったという意見があったが、伊那地区には今年360万円の配分があるので、この360万円は地域の活性化や自主的な活動にしっかり使っていただきたいと思う。事業をしたいグループがあれば、この後の審査の中で取り上げていただいて、一つ一つの小さな動きを大きくしていく形に結びついていけば、ありがたいと思う。活性化・独創性・公益性・発展性といった選考基準があるので、こういった視点で、できるだけ多くの活動の芽が出るような取り組みを伊那地区で考えていただきたい。

(委員)

今まで区で行われてきた事業は区費や会費などで運営されているが、今回の交付金はそういう事業に充当することができるのか。

(事務局)

既に行っている事業はさらに工夫することで発展性があるという判断基準で伊那地域協議会の中で決定してもらえれば良いと考えている。既存のものに充当するのは基本的には避けていただきたい。新しい事業に対して交付していくのが、基本だと思う。今までやっていた事業にただ充当するのは避けるべきで、地域の活性化をさらに図るという視点で取り組んでいただきたい。

(委員)

この交付金は、今年だけではなく、今後も続いていくのか。応募のチラシには書いてなかった。毎年募集されるというのが分かれば、挑戦してみたい・考えてみたいという人がもっといるのではないかと思う。そのあたりを市報などで、もっと周知すべきではないか。

(事務局)

配当された交付金を有効に活用できるよう積極的に提案していただきたい。条例で根拠のある交付金なので、一過性のものでなくて一定の役割を果たすまでは、金額・内容等を見直しながら、継続していく予定なので、十分に活用してもらえればと思う。広報については、地域の方が知らなかったというのが一番良くないので、改めて事務局でも伊那地区についての広報の有り方を検討して、区長さんなりこの協議会の委員さんを通じて、周知できるような方法を考えたい。

(会長)

問題点と実情が分かったと思う。聞いていると、早い段階だったので今年は区長さんのところで判断したという区もあることが分かった。広報の仕方、そしてどういうところでどのくらいの期間で判断するのかということが問題になってきていると思う。また、現在希望がでていくわけだが、再募集の話もあったので、それを含めて次のことに進めていき

たい。

(委員)

募集時期だが、区の行政が1月から小学校が4月から始まるとすると、4月5月の募集期間ではとても計画を立てることができないので、3か月なり4か月経過した時点での募集にしていいただきたい。

(事務局)

今回この交付金はスタートの年で、募集期間が短くなってしまった。今後継続的に行っていくので、次年度の交付金については、もっと早い段階で募集・周知をする予定である。今年度についてはご了承いただきたい。

(会長)

交付金について色々なご意見をいただき、問題点もあるし良い面もあるということが分かったので、次回に生かしていきたい。

(3) 伊那市協働のまちづくり交付金事業の選定について資料に基づき、説明。

< 質疑・応答、意見交換 >

(会長)

現在出されている3事業について説明があった。選考については次に考えるが、何か質問・意見ありますか。

(委員)

今ここで全部審査して決めていくという理解でよいか。

(事務局)

初めてなので、みなさん全員でこの場で決めていただくのは難しいと思っている。事務局としては、小委員会を設けて選考委員会のような形で事業を選考したらどうかと考えている。

(委員)

提案をいただいた事業について事務局の説明を聞いただけだが、実際は団体へのヒアリングをして選考していかなければならないと思う。基準については説明してもらったが、選考の順序について教えていただきたい。また、早いものは6月から事業の実施計画があるので、選考に時間をかけていると事業が停滞してしまう。そのあたりも含めて事務局の案を聞きたい。

(事務局)

選考委員会ということを知っていただければ、ただちに開催して実施団体のヒアリングを行っていききたい。できるだけ早い段階の選考委員会、事業選定と進めていききたい。

(会長)

事務局、選考についての方法等提案がありますか。

(事務局)

選考委員会を設けて選考することを了承いただけるということによいか。

(会長)

選考については、選考委員会を設けるということによいか。

<異議なし>

(会長)

事務局、選考方法の具体的な案をお願いします。

(事務局)

選考委員会については多くの委員さんから意見をいただくことにこしたことはないが、できれば少人数でと考えている。選考委員会には正副会長さんのほか、まちづくりや産業・観光といった幅広い視点をお持ちの観光協会 池上直樹委員、女性の立場から幅広い地域活性化の視点も必要ということから女性人材バンクの中村繁子委員、ご自身もまちづくり活動を実践され幅広い見識をお持ちの平賀裕子委員、以上6名の方で選考委員会を構成していただければと提案するがいかがか。

(会長)

具体的な選考委員として案を示していただいた。6名の方を委員として交付事業について審査をしていただくという案だが、ご意見願います。

(委員)

私はこういう協議会は初めてだが、まちづくりに興味があるので選考委員会に参加できないか。

(事務局)

ご自身も是非参加したいということによいか。事務局としては自主的な参加についてダメだということはないので、お諮りいただければと思う。

(会長)

今、個人的に参加希望があったが、いかがか。

<異議なし>

(会長)

では、6名の方と一緒に選考いただくということでお願いします。

(委員)

交付金については、今の選考委員会が次年度も行うことになるのか。我々他の委員は交付金に対して一切関係なしということなのか。

(事務局)

選考委員会については、今年度中はこのメンバーでお願いし、次年度以降は必要に応じて構成を変更するという考え方でお願いしたい。

(委員)

委員会で決めたことを全体の会議へ諮ることは考えているか。また説明・報告した上で公に発表するのか考えているか。

(会長)

小委員会で選考して判断するわけなので、報告する判断がひっくり返ってしまっは、小委員会の権限がなくなってしまう。

(事務局)

当然報告は必要になってくると思う。選考の小委員会なので、ある程度の権限、採否の決定権は小委員会へ委ねていただきたい。

(委員)

報告の時期はいつを考えているか。

(事務局)

協議会の開催については随時開催することとしていて、去年は隔月で6回開催となったが、必要に応じ随時開催していくことになると思う。事業実施団体からは6月から事業開始の希望もあり、ただちに選考したいが、報告時期となると今月末というのも難しいと思うので、会長・副会長と相談する中で適切な時期に開催したい。

(委員)

ご自身で選考委員会に参加したいと言われたことは、とてもよかったと思う。基本は協議会で選考をすることになっていると思うが、その都度協議会を開いては即決することができないので、代表を決めて選考委員会を作って選考していくのは非常に良いことだと思う。みなさんに選考委員になる機会を与えていただいて立候補する方はした方が良いと思う。

(委員)

お金の絡むことなので、各団体に結果を報告する前に、一度全体会を開いていただいて、協議会で了解を得たことにしていただきたい。我々と相反する選考結果が出た場合に何か意見を言わないとといったいどこで決まったんだと言われた時に、答弁しようがないので、団体に報告する前に協議会に報告してもらいたい。

(委員)

今回は募集期間が短く、応募も3団体にとどまった。もう少し期間をとって2次募集を行い、併せてこの3団体の申請も審査したらどうか。

(事務局)

今回申請のあった団体では360万円の交付金に達しておらず、申請のあった事業が採択されるかどうか分からないので、2次募集を行っていくことになるかと思う。

(委員)

3つの事業が申請されているが、対象の範囲は伊那地区でなくてもいいのか。2番の事業は上伊那と名前があるように、上伊那各所からお子さんに来てもらって事業を行うことになる。伊那地区以外の人を対象に伊那地区で事業をすることも認められるのかどうか、範囲をある程度明確にしないと、再募集をしても伊那地区以外の人を対象になる事業を行うのではまずいと思うので、範囲を明確にしていきたい。

(事務局)

この団体においては伊那地区の住民を対象としているかどうかは疑問になるところだが、今回の選考委員の中で一定の基準を決めていただいて、地域の住民を対象にした分だけ認めるとか、全域に係るので伊那地域の交付金としてはふさわしくないとか、これから順次決めていくしかないと思う。ただこの地域で活動している団体であることは事実なので、その点を選考基準に照らし合わせた時にどうかという判断が必要になると思う。伊那地域で使う交付金なので、その判断の中でどこまでこの団体の活動を認めていくか、選考の段階で基準を新たに設ける必要があると考える。

(委員)

不登校とかは大問題で支援をしなければいけないが、伊那地域協議会で支援をしなければならぬのか。具体的に何をやってどうやって活性化し、みんなが理解した上で行うことが重要で、視点をきちんと与えて募集するのが良いと思う。

(委員)

この事業を実施した場合、最終的な市民への報告等はどのようにするのか。

(事務局)

各地区で実施団体が行った事業全部ということにはならないが、先駆的で他にも波及効果が見込まれる事業は、報告会を行って事業の内容等について共有をしていきたい。

(委員)

事業経費がざっくりだが、事業終了後の監査はするのか。もし余ったお金がある場合はどうするのか。

(事務局)

当然、実績の報告を出していただく。交付決定額より実際には使わなかったということになれば、使わなかった分はお返しいただくというのが、市の交付金・補助金制度の基本的な考え方である。

(委員)

提案だが、この会の運営そのものだが、長谷が1,800人、伊那が3万人、それを同じくくりとして話をするのは無理がある。地区の問題については特に過疎化の問題については、大きな問題。グループ討議があると思うが、グループ分けも同じ課題を抱える地区で分けて討議をしていかないと話が進まないと思うので、是非そんな形で運営をしてもらいたい。

(会長)

要望としてお聞きをし、運営に生かしてもらえればと思う。交付金の選考の過程では、今のようなことがまた出てくるかもしれないが、それを加味して改めるところは改め、選考は進めていったらどうかと思う。選考結果はこの協議会で報告する。

(委員)

小委員会で決定までして、協議会では報告するだけということになるのか。小委員会が案として協議会に諮って決定する形ではなくて。

(会長)

そのあたりはいかがか。少し近い時期に全体会を開いて選考結果についての会を開かないと決定されないことになるが、いかがか。

(委員)

私は区の選出で委員となっているが、区から申請が上がっていた時にその事業については結果だけしか持って帰れず、意見を言う機会はないのか。選考される段階でヒアリングをしようと思うが、その経過報告等も全部出てくるということになるか。

(事務局)

今回は特に判断基準が難しい中での選考になるが、選考委員会でまずは方向性を決定していただき、改めて全体会の中で選考委員としてはこういう判断基準で考えたみなさんに共有し、判断基準はこのほうがいだろう等の意見を出していただいた上で、仕上げていくのが組織の基本だと思う。委員のみなさんには何回も集まっていただくことになるが、選考委員会ではあくまでヒアリングや調査を通じて方向性を出していただき、それを全体会で発表して決定していくこととしたい。

(会長)

選考委員会で方向性を出し、改めて全員のみなさんに集まっていただいて全体ではっきりさせるという二段階方式。ご意見願います。

<賛成の声>

(会長)

いいですか。会合は覚悟していただいて。決定するまでに何回か、選考委員会も含めて全体会が近々あるということで、よろしいか。

<異議なし>

(会長)

今の提案でよいか。拍手願います。

<拍手>

(委員)

協議会の年間運営計画を教えてください。

(事務局)

今一つ確認いただいたのは、交付金の選考委員会における結果、報告いただいた結果を協議会で決定するといったこと。これは随時ということになるかと思う。また、地域協議会に期待する役割として、地域の魅力あるいは課題そういったものを、課題解決・魅力の

活用といったことでまちづくりを進めていくのを検討していただく会になろうかと思う。昨年の例としては隔月で計6回行ってきた。検討内容によっては期間が短くなったり、あるいは長くなったり、みなさんの必要に応じて会議は随時、会長・副会長と相談する中で進めていきたいと思う。

(委員)

昨年からの引き継ぎ事項で重要な課題があるわけで、これが全体会6回で結論が出るわけがない。そうした場合には小委員会を設置して6回以上集まって検討していかないと結論が出ない。できるだけ早く、小委員会をいくつ作るのか、いつの時期に何をするのか等スケジュールを決めて運営してもらいたい。できるだけ課題の結論をある程度方向性が出せるような会議をしたい。私たちも協力するので、是非そういう方向に持っていきけるようお願いしたい。

(会長)

建設的なご意見をいただいた。過去にも小委員会を設置して、問題別の小委員会を作り、市役所でないところで委員会をやったり、現地を見たりして動いてきた。そういった歴史があるので、事務局の方でも考えていただいていると思う。

(事務局)

前回の引き継ぎ事項も検討していただきたい内容となっている。今後の進め方を正副会長さんとも協議する中で、今年度のスケジュールを委員のみなさんへ次回にはお示ししたい。

(会長)

交付金については初めてだったので、色々な意見が出た。その点では良かったと思う。難しさもあるし、不明なところがあったと思うので、いろいろ意見をいただいて良かった。交付金並びに選考についてはよろしいか。

その他ありますか。

(事務局)

特にございません。

(会長)

その他、委員のみなさんから何かありますか。

(委員)

昨年の議事録に署名のないものがある。議事録はその都度発行されるのか、それとも発行しないのか確認したい。

(事務局)

基本的に議事録署名をしていただくことになっている。署名がないというのは確認をして、改めて報告をさせていただく。基本的に議事録は全て公開させていただいていて、ホームページに掲載している。

(委員)

その都度配ってくれるということか。

(事務局)

今後、議事録については、委員のみなさんに配る形にしたい。

(委員)

区長から任命を受けている役員という立場なので、区長に報告しなければならない。決定したきちんとしたものに基づいて報告しなければいけないと思うので、議事録を出していただきたい。

(事務局)

承知しました。

(武田会長)

他にいかがか。

(委員)

まちづくり交付金の追加の募集については早急に出されるということで理解してよいのか。

(事務局)

早い段階でできればと考えている。

(会長)

いろいろ意見を出していただきありがとうございました。初めての会だということと、交付金という新しいこともあったので、みなさんからいろいろ出していただいてよかったと思う。是非今後ともこのような空気をお願いしたい。ご協力ありがとうございました。

6 閉会

(事務局)

我々も初めての交付金なので、様々な意見をいただくなかで、充実した制度にしていく

予定なので、ご協力をお願いしたい。次回の会議については、選考委員会を経てその結果の報告を含め、今年度の計画をお示しするという事で、できるだけ早い時期に開催したいと思う。

(委員)

小委員会の日程は。

(事務局)

この後、小委員会の委員のみなさんにお集まりいただきたいと思う。

(副会長)

長時間にわたりまして貴重なご意見、ご発言をいただきありがとうございます。これから2年間このメンバーで伊那地域の活性化に向けて取り組んでいく。この地域がより良い地域となるようみんなで力を合わせて取り組んでいくことをお願いして、本日の会議を閉会する。

本会議に会議録を作成し、会長及び会議録署名人において下記のとおり署名する。

平成28年5月19日

平成28年度 第1回伊那地域協議会 会議録

会 長

.....

会議録署名人

.....

会議録署名人

.....